

報道関係各位

2017年5月16日  
公益財団法人 国際高等研究所

国際高等研究所シンポジウムのお知らせ  
“激変する地球時代をいかに生きるかー「けいはんな」からの発信ー”  
6/26（月）大阪、6/29（木）東京にて開催

公益財団法人国際高等研究所（京都府木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、「何を研究すべきかを研究する」研究所として1984年にけいはんな学研都市に創設されました。

21世紀の世界において地球が直面している深刻な課題を基幹プログラムとして研究を進めてきました。本シンポジウムでは、基調講演のあと、各基幹プログラムの研究代表者からの報告と総合討論を行い、皆さまと共に人類や地球の未来について考えます。

【国際高等研究所シンポジウム 開催概要】

タイトル） 激変する地球時代をいかに生きるかー「けいはんな」からの発信ー

＜大阪開催＞

◆日 時 2017年6月26日（月）13:00～17:00

◆会 場 大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール  
住所）大阪市北区中之島4-3-53

◆13:10～13:50 【基調講演】中村 桂子 氏（JT 生命誌研究館 館長）

◆14:00～16:55 基幹プログラム報告・総合討論（コメンテーター 石田英敬東京大学教授）

◆入場無料、定員200名（先着順）

＜東京開催＞

◆日 時 2017年6月29日（木）13:00～17:00

◆会 場 時事通信ホール  
住所）東京都中央区銀座5-15-8

◆13:10～13:50 【基調講演】橋爪 大三郎 氏（社会学者、東京工業大学名誉教授）

◆14:00～16:55 基幹プログラム報告・総合討論（コメンテーター 広井良典京都大学教授）

◆入場無料、定員300名（先着順）

■参加お申込み方法：国際高等研究所 Web サイト <http://www.iias.or.jp/communication/forum>  
詳細は別紙をご参照ください。

※報道関係の皆様へ：当シンポジウム開催の告知記事のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。  
シンポジウム当日にご取材いただける場合は事前にお知らせください。なお当日のご取材に関するご案内は後日改めてご連絡させていただく予定です。

（本プレスリリースに関するお問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地

TEL: 0774-73-4000 / FAX 0774-73-4005 / 携帯:090-4288-4001 / E-mail: [kouhou@iias.or.jp](mailto:kouhou@iias.or.jp)

ホームページ: <http://www.iias.or.jp/>

# 激変する地球時代を いかに生きるか

—「けいはんな」からの発信—

入場  
無料

日時・場所

2017年6月26日(月) 13:00~17:00

受付開始:12:30

大阪大学  
中之島センター

佐治敬三メモリアルホール  
先着:200名



基調講演 13:10~13:50

テーマ

「生きる」、「暮らす」  
からの発想で「和」の再考を

中村 桂子

JT 生命誌研究館館長

基幹プログラム報告・総合討論 14:00~16:55

テーマ 21世紀地球社会における科学技術のあり方

有本 建男 | 国際高等研究所副所長

テーマ 人類生存の持続可能性を探究する

佐和 隆光 | 国際高等研究所研究参与

テーマ 多様性世界の平和的共生の方策

位田 隆一 | 国際高等研究所副所長

テーマ 30年先のけいはんな未来都市は  
いかにあるべきか

松本 紘 | 国際高等研究所副所長

総合討論 コメンテーター 石田 英敬 | 東京大学大学院情報学環教授  
同大学院総合文化研究科教授

モデレーター 長尾 真 | 国際高等研究所所長

シンポジウムへのお申し込み

参加のお申し込みは国際高等研究所Webサイト  
<http://www.ias.or.jp/>で受け付けております。



主催 公益財団法人国際高等研究所

共催 日本経済団体連合会、関西経済連合会、関西文化学術研究都市推進機構、京都府

後援 総務省、文部科学省、経済産業省

近畿経済産業局、国立国会図書館、科学技術振興機構、日本学術振興会、日本商工会議所、東京商工会議所、京都商工会議所、大阪商工会議所、奈良商工会議所、(株)けいはんな、大阪府、奈良県、木津川市、京田辺市、精華町、交野市、四條畷市、枚方市、奈良市、生駒市、京都大、大阪大、奈良先端科学技術大学院大、京都府立大、同志社大、同志社女子大、大阪電気通信大、関西外国語大(順不同)

問い合わせ先:国際高等研究所シンポジウム事務局 Tel : 0774-73-4000



## 開催趣旨

国際高等研究所は、1984年に「何を研究すべきかを研究する」研究所として、けいはんな学研都市に創設されました。21世紀の世界における課題について集中的に議論を重ねた結果、とくに深刻な4つの課題について基幹プログラムとして研究を進めてきました。本シンポジウムでは、これらの研究をもとに皆さまと共に人類や地球の未来について考えます。

## プログラム

13:00～13:10

開会挨拶



長尾 真

国際高等研究所所長

京都大学第23代総長、情報通信研究機構理事長、国立国会図書館長などを歴任。専門は自然言語処理・画像処理・パターン認識。機械翻訳国際連盟・言語処理学会を設立。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、日本国際賞を受章。文化功労者。

13:10～13:50

基調講演



中村 桂子

JIL生命誌研究館館長

三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授などを歴任。生きものを機械として解析する生命科学でなく、歴史と関係の中でとらえる生命誌を提唱。著書に『生命誌とは何か』、『科学者が人間であること』など。

<ブレイク>

14:00～16:55

基幹プログラム報告・総合討論

14:00～14:25

21世紀地球社会における科学技術のあり方



有本 建男

国際高等研究所副所長

政策研究大学院大学教授、科学技術振興機構上席フェロー。文部科学省科学技術・学術政策局長などを歴任。専門は科学技術政策。OECD科学的助言国際プロジェクト共同議長。著書に『高度情報化社会のガバナンス』、『科学的助言：21世紀の科学技術と政策形成』など。

14:25～14:50

人類生存の持続可能性を探究する



佐和 隆光

国際高等研究所研究参与

滋賀大学特別招聘教授、京都大学名誉教授、滋賀大学前学長、国立情報学研究所副所長、京都大学経済研究所所長などを歴任。専門は計量経済学、エネルギー・環境経済学。著書に『グリーン資本主義』、『資本主義は何処へ行く』、『経済学のすすめ』など。

14:50～15:15

多様性世界の平和的共生の方策



位田 隆一

国際高等研究所副所長

滋賀大学学長、京都大学名誉教授。ユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官、同志社大学特別客員教授、京都女子大学客員教授などを歴任。専門は国際法・国際機構、国際生命倫理。フランス共和国教育功労章騎士章を受章。

15:15～15:40

30年先のけいはんな未来都市はいかにあるべきか



松本 紘

国際高等研究所副所長

理化学研究所理事長、京都大学名誉教授。京都大学前総長、京大宇宙生命研究所所長などを歴任。専門は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波科学、宇宙エネルギー工学。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、名誉大英勲章OBEを受章。

<ブレイク>

15:55～16:55

総合討論

モデレーター

長尾 真 | 国際高等研究所所長



コメンテーター

石田 英敬

東京大学大学院情報学環教授・同大学院総合文化研究科教授

東京大学大学院情報学環長・学際情報学府長、同附属図書館副館長などを歴任。その間、パリ大学客員教授、仏国際哲学コレージュ・プログラムディレクターなど。専門は、記号学、メディア論。著書に『現代思想の教科書』、『大人のためのメディア論講義』など。

16:55～17:00

閉会挨拶

長尾 真 | 国際高等研究所所長

## 基調講演要旨

### 「生きる」、「暮らす」からの発想で「和」の再考を

地球時代(グローバル)という言葉は二様の意味を持つ。一つは、地球上の多様な生きものの一つである人類が自然を生かした多様な文化を基に文明を築く時代であり、これが本来の意味であろう。もう一つは、新自由主義、金融経済、科学技術開発で富と権力を手にした一握りの人々が地球を左右する時代という意味だ。まず日本からの発信としては、第一の意味の「地球時代」を実現する具体的方法を示す必要がある。近代科学に始まる機械論的世界観が科学そのものによって壊され、生命論的世界観に変化しているところから考えを進めたい。一例として、生命科学が明らかにした生きものの特徴を生かす可能性の高い日本の文化を、「和」を切り口に考え、そこから生れる日常を見ていく。

## 基幹プログラムの概要

数百年にわたり築かれてきた近代科学技術の方法、その思想的枠組みと制度体制が大きな転換期を迎えているのではないのでしょうか。21世紀の科学技術とは何か、学問とは何か、大学とは何かという根本的問題を問い直し、有限資源の地球、深刻な環境汚染、地球温暖化、人間と機械の境界の曖昧さといった人類が直面している問題に対して、科学技術活動をどのようにすべきか。日本の経験と特徴を生かして、具体的な方策を考え実践を目指します。

1980年代から2008年の国際金融危機に至るまで市場万能主義が席卷を極め、社会主義の崩壊を受けてグローバリゼーションが進展しました。と同時に気候変動を緩和するべく、人為起源の二酸化炭素排出量削減の方途が模索されてきました。また、この間、情報通信技術の革新が目覚ましく、人工知能が人間の知的労働を代替する時代の到来が予見されています。ところが、ここ一兩年のうちに、反グローバリズム、反民主主義のうねりが押し寄せ、世界は大きく揺らいでいます。こうした激変の下、脅かされる人類生存の持続可能性を担保するために、あるべき科学技術と社会システム改編の方策を考えます。

さまざまな考え方、多様な価値観、倫理観、宗教を持つ人々や社会・国家が平和的に共生するためにはどうしたらよいのでしょうか。共生を阻む要因とそれを克服する方策を考え、平和的共生に至る道をどう描くかを探究しています。そのために、GDPに代わる人間の尊厳や豊かさに基づく未来志向型の指標を提示します。それをもとに、多様性世界の平和的共生に向けて世界的に議論するネットワークの構築を目指します。

21世紀の地球社会における都市や地域はどうあるべきなのでしょう。国際高等研究所が立地するけいはんな学研都市が未来都市の模範となるために、今後どのような街づくりをしていったらよいのでしょうか。街びらきから30年が経過した今、30年先の地球時代、未来社会の姿を描き、この都市の現状と課題を把握し、けいはんな学研都市に特有の文化や伝統を生かしながら、これからの街づくりに繋がる視点や考え方を提示しています。



## —「けいはんな」からの発信—

問い合わせ先: 国際高等研究所シンポジウム事務局 Tel: 0774-73-4000



## 開催趣旨

国際高等研究所は、1984年に「何を研究すべきかを研究する」研究所として、けいはんな学研都市に創設されました。21世紀の世界における課題について集中的に議論を重ねた結果、とくに深刻な4つの課題について基幹プログラムとして研究を進めてきました。本シンポジウムでは、これらの研究をもとに皆さまと共に人類や地球の未来について考えます。

## プログラム

13:00～13:10

開会挨拶



長尾 真

国際高等研究所所長

京都大学第23代総長、情報通信研究機構理事長、国立国会図書館長などを歴任。専門は自然言語処理・画像処理・パターン認識。機械翻訳国際連盟・言語処理学会を設立。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、日本国際賞を受章。文化功労者。

13:10～13:50

基調講演

基調講演要旨



橋爪 大三郎

社会学者、  
東京工業大学名誉教授

執筆活動を経て、東京工業大学教授（～2013）。専門は、理論社会学、比較宗教論など。著書に『げんきな日本論』、『戦争の社会学』、『ふしぎなキリスト教』、『面白くて眠れなくなる社会学』、『世界がわかる宗教社会学入門』、『はじめての構造主義』など。

<ブレイク>

テーマ 「日本は世界に何を伝えるか」

日本のユニークな点。それは、相対的に孤立した環境のなかで独自の文化を築きあげ、非西欧圏にありながらいち早く近代化を成し遂げたこと。世界史のなかで、めずらしい成功例だ。この秘密はなにか。この経験から、なにを学べるか。日本人は、日本独自の伝統と経験について、世界に語る用意がなかった。独自の文化と経験を、普遍的な言葉で語ったときに、世界の人びとはそこから多くを学べる。この試みは、西欧だけが近代であるかのように無意識に考えてきた世界の知性にとっても、自己をゆるがすチャレンジである。多様な世界が多様なまま、調和と平和を実現するために、日本は何を語ればいいのか共に考えたい。

14:00～16:55

基幹プログラム報告・総合討論

基幹プログラムの概要

14:00～14:25

テーマ 21世紀地球社会における科学技術のあり方



有本 建男

国際高等研究所副所長

政策研究大学院大学教授、科学技術振興機構首席フェロー。文部科学省科学技術・学術政策局長などを歴任。専門は科学技術政策。OECD科学的助言国際プロジェクト共同議長。著書に『高度情報化社会のガバナンス』、『科学的助言：21世紀の科学技術と政策形成』など。

数百年にわたり築かれてきた近代科学技術の方法、その思想的枠組みと制度体制が大きな転換期を迎えているのではないのでしょうか。21世紀の科学技術とは何か、学問とは何か、大学とは何かという根本的問題を問い直し、有限資源の地球、深刻な環境汚染、地球温暖化、人間と機械の境界の曖昧さといった人類が直面している問題に対して、科学技術活動をどのようにすべきか。日本の経験と特徴を生かして、具体的な方策を考え実践を目指します。

14:25～14:50

テーマ 人類生存の持続可能性を探求する



佐和 隆光

国際高等研究所研究参与

滋賀大学特別招聘教授、京都大学名誉教授。滋賀大学前学長、国立情報学研究所副所長、京都大学経済研究所所長などを歴任。専門は計量経済学、エネルギー・環境経済学。著書に『グリーン資本主義』、『資本主義は何処へ行く』、『経済学のすすめ』など。

1980年代から2008年の国際金融危機に至るまで市場万能主義が席卷を極め、社会主義の崩壊を受けてグローバリゼーションが進展しました。と同時に気候変動を緩和するべく、人為起源の二酸化炭素排出量削減の方途が模索されてきました。また、この間、情報通信技術の革新が目覚ましく、人工知能が人間の知的労働を代替する時代の到来が予見されています。ところが、ここ一兩年のうちに、反グローバリズム、反民主主義のうねりが押し寄せ、世界は大きく揺らいでいます。こうした激変の下、脅かされる人類生存の持続可能性を担保するために、あるべき科学技術と社会システム改編の方策を考えます。

14:50～15:15

テーマ 多様性世界の平和的共生の方策



位田 隆一

国際高等研究所副所長

滋賀大学学長、京都大学名誉教授。ユネスコ国際生命倫理委員会委員長、文部科学省研究振興局科学官、同志社大学特別客員教授、京都女子大学客員教授などを歴任。専門は国際法・国際機構、国際生命倫理。フランス共和国教育功労章騎士章を受章。

さまざまな考え方、多様な価値観、倫理観、宗教を持つ人々や社会・国家が平和的に共生するためにはどうしたらよいのでしょうか。共生を阻む要因とそれを克服する方策を考え、平和的共生に至る道をどう描くかを探究しています。そのために、GDPに代わる人間の尊厳や豊かさに基づく未来志向型の指標を提示します。それをもとに、多様性世界の平和的共生に向けて世界的に議論するネットワークの構築を目指します。

15:15～15:40

テーマ 30年先の地域社会の姿を求めて

—けいはんな学研都市を例にして—



松本 紘

国際高等研究所副所長

理化学研究所理事長、京都大学名誉教授。京都大学前総長、京都大学生存圏研究所所長などを歴任。専門は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波科学、宇宙エネルギー工学。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、名誉大英勲章OBEを受章。

21世紀の地球社会における都市や地域はどうあるべきなのでしょう。国際高等研究所が立地するけいはんな学研都市が未来都市の模範となるために、今後どのような街づくりをしていったらよいのでしょうか。街びらきから30年が経過した今、30年先の地球時代、未来社会の姿を描き、この都市の現状と課題を把握し、けいはんな学研都市に特有の文化や伝統を生かしながら、これからの街づくりに繋がる視点や考え方を提示しています。

<ブレイク>

15:55～16:55

総合討論

モデレーター

長尾 真 | 国際高等研究所所長



コメンテーター

広井 良典

京都大学こころの未来  
研究センター教授

厚生省、千葉大学法経学部教授、マサチューセッツ工科大学(MIT) 客員研究員などを歴任。専門は、公共政策・科学哲学。著書に『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、『人口減少社会という希望——コミュニティ経済の生成と地球倫理』など。

16:55～17:00

閉会挨拶

長尾 真 | 国際高等研究所所長